

第6回全国相撲指導者研修会



模擬授業「押しの指導」の様子

第6回全国相撲指導者研修会（主催＝日本武道館・日本相撲連盟、後援＝スポーツ庁、勝浦市教育委員会）は11月15～17日の3日間、千葉県勝浦市の日本武道館研修センターで83名が参加して行われた。本事業は全国で相撲を指導する小中学校・高等学校の教員および社会体育指導者並びにこれら指導者を対象に、相撲授業における指導理論と指導法に関する研修会を実施し、専門的な知識・技術・指導法を習得した指導者を養成し、もって我が国の伝統と文化に立脚した相撲を通じた人格形成活動の普及振興を図る目的で開催された。

■1日目（11月15日）

開講式では、はじめに安井和男日本相撲連盟専務理事が挨拶に立った。「本研修会は6回目を迎え、全国から学校教員、地域指導者、大学生など多くの方に参加いただきました。講師陣でしっかりと計画を練り、相撲の授業をいかに安全で楽しく、効果的に指導ができるかが、考えられた研修となっております。今回のつながりを大事にし、今後も相撲の指導普及に尽力いただき、3日間の講義、実技を通して、情報交換をしながら実のある研修会にしていだければと思います」

続いて、三藤芳生日本武道館常任理事・事務局

長が挨拶を行った。「中学校武道必修化は8年を迎え、武道9種目が次期学習指導要領には並列明記されます。スポーツ庁が外部指導者を活用した複数種目のモデル実践校を全国9ブロック、96校で現在実施するよう準備、実行されています。今後、実施校を増やしていくには、日本相撲連盟、都道府県市区町村の教育委員会、スポーツ庁の連携に加えて、みなさんの協力が必要です。日本を代表する講師の先生方からご指導をいただきながら、中学校武道必修化に関心を持って、実施校が増えるよう、さらなる指導力の向上を期待いたします」

開講式後、『中学校武道必修化指導書 DVD』の武道編を全員で視聴。続いて、桑森真介講師が『指導法概論』と題して講義を行った。中学校武道必修化の経緯、学習指導要領などについて説明。相撲は、比較的ケガが少なく、ルールが簡単であること、直接的な身体接触を通して、相手とのコミュニケーションを図ることができる。また、仲間同士の連帯感、信頼感を高めることができるなど、教材としての相撲の魅力について解説した。

その後、長浦卓也講師（熊本市立出水南中学校教諭）が実践事例紹介を行った。長浦講師は、サッカーを専門としており、相撲経験はないが、全国相撲指導者研修会で学んだ経験を活かして、平成29年度から用具がなくてもできる相撲を授業に

取り入れた。授業は体育館で保健体育科教員 2 名が指導にあっている。生徒に相撲の楽しさや喜びを味わわせるため、生徒に四股名を考えさせたり、グループ活動の班を“所属部屋”、リーダーのことは“親方”と呼ぶなど、相撲に愛着を持つ工夫を凝らした授業を発表した。

大道場へ移動し、上村裕一助講師、村田安啓助講師、太田麻乃助講師が基本動作から簡易試合までの実技研修を行った。蹲踞^{そんきよ}、塵手水^{ちりちようず}、中腰の構え、四股、運び足、受け身を指導し、その後、映像を見ながら、押し、寄り、前さばきを紹介。簡易試合では、ペアを組んで手押し相撲、押し合い相撲など、攻防を楽しみながら行った。

続いて、指導計画について満留久摩^{みつどめきゅうま}講師が講義を行い、相撲の特性、学習指導の在り方について説明した。特に、「相撲を教えるのではなく、相撲で何を教えるのか、相撲らしさを失わずに柔軟な考えを持って指導法を考えてほしい」と述べた。

最後に 2 日目に行われる模擬授業の指導計画作成のポイントを示し、1 日目を終了した。

■2 日目 (11 月 16 日)

はじめに、安藤均講師が『安全管理・指導』について講義を行った。学校における危機管理、頭部外傷について説明し、「学校は生徒が安心して学ぶ安全な場所でなければならない。そのためには適切かつ確実な危機管理体制が必要である」と述べた。その後班ごとに分かれ、相撲の危険な態勢、技などについて確認した。最後に「無理のないよう段階的に指導し、何か起こるかもしれないと心構えをして準備することが重要である」と説明した。

続いて、堀内^{わたる}弥助講師が指導案の作成方法の説明を行い、グループごとに指導案を作成し、午後の実践研究に備えた。

午後は、勝浦市立勝浦中学校の生徒 19 名の協力を得て、1 コマ約 15 分の授業で「中腰の構え」「四股」「押し」「寄り」「崩し」「礼法」をテーマに各班模擬授業を行った。生徒が楽しく取り組めるよう、

ムカデ競争(運び足)や押し相撲を用いるなど、工夫を凝らした授業が展開された。



その後、模擬授業の振り返りとして、各班が感想を述べ、観察責任者が安全面への配慮、ポイントをおさえて技能指導ができているか、生徒の興味関心を喚起しているかなどの視点から意見を述べた。

■3 日目 (11 月 17 日)

最終日は、まず浦島三郎講師が審判法の研修を行った。続いて、堀内助講師が授業における審判の注意点を説明した。その後、これまでの研修を基に、班ごとに分かれて、2、3 時間目の授業想定で簡易試合を考え、尻相撲や、柔道の帯を使ったバランスを崩しあう簡易試合が実践された。最後に、簡易試合を用いた班対抗の団体戦を行い、白熱した試合展開が繰り広げられた。



閉講式では、満留講師が講評を、安井和男日本相撲連盟専務理事が主催者挨拶を行い、全日程を終了した。